

5月・6月の管理ポイント



株式会社

トモグリーンケミカル

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第87号

5月は新緑の季節で芝生が最も元気な時期です。

灌漑対策を万全にして、根をしっかりと伸ばしておきましょう。

6月の梅雨時期は、日照不足と降雨で土壌中の酸素濃度は低くなります。糖類を補給し、サッチ層を除去して通気性の良い状態に努めましょう。



レボ (REVO)

5月の生育期、6月の排水対策に...

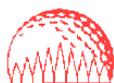
5月は芝生の根をしっかりと伸ばす大切な時期です!!

レボにより表層を乾き気味、土壌中は気層をしっかりと確保した状態にキープし、芝生の発根を促しましょう。土壌中を乾燥気味にして、根に軽いストレスを与えたほうが根が下方まで伸びていきます。

散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なう場合よりも(根域にストレスがかからない)、回数を減らして一度に十分な散水を行なったほうが(根域に軽いストレスがかかる)、根域が深くなります。

6月は、梅雨のため土壌が飽和状態になります。レボ処理で余分な水を排水させましょう。

使用量：レボ 2ml/m² 散布水量：200ml~1L/m² 散布回数：1ヶ月に1回



光合成細菌・サッチ・リムーバー

サッチ層の除去には...

梅雨前の更新作業時に**光合成細菌**と**サッチ・リムーバー**を組み合わせることによって、サッチを効率よく分解し、通気性の良いグリーンをつくりましょう。

光合成細菌 使用量：1~2cc 10/m²散布 月1~2回

サッチ・リムーバー 使用量：1~2g/m² 0.50/m²散布 使用回数：月1~2回 光合成細菌の取り扱いには研究会制です



コ・エンザ

梅雨時期のストレスのかかった芝生には...

梅雨時期は日照不足のため植物内の活性が低下し、芝生が軟弱になります。

コ・エンザ処理により、植物内の酵素反応を潤滑にし、弱った芝生の回復に努めましょう。

使用量：ベント1~2g/m² 10/m²散布 コウライ3~4g/m² 10/m²散布



ダイアジノンSLゾル・ブイボン乳剤

害虫発生にあわせて...

5月はシバオサゾウムシ、スジキリヨトウ、シバツトガ成虫が活動を開始します。

速効性の**ブイボン乳剤**で防除しましょう。

6月中旬以降はセマダラコガネ、マメコガネ成虫が発生します。

更新作業にあわせて**ダイアジノンSLゾル**を処理し、若令幼虫のステージで防除しましょう。

使用量：ダイアジノンSLゾル 250倍 0.7~10/m²、ブイボン乳剤 2000倍 0.3~0.50/m²



グリーンメカ・マリンパワー

日照不足を補うために、芝生や有用菌のえさとして...

梅雨は日照不足にともない、芝生の光合成が低下していきます(糖類生成量減少)。

黒糖、各種ミネラルの豊富な**グリーンメカ**で不足しがちな糖類を補ってあげましょう。

光合成細菌と**マリンパワー**を組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いどぶ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌を定着させましょう。

使用量：グリーンメカ 5~10ml/m² 10/m²以上 マリンパワー 2~4ml/m² 10/m²以上

C3植物とC4植物の違いについて

一般的に、ゴルフ場の芝生は、ベントなどの寒地型はC3植物、日本芝やバミューダなどの暖地型はC4植物といわれています。

C4植物は、C3植物に比べて進化した植物といわれており、それは、C4植物の方が「高温」、「乾燥」、「強光下」、「貧窒素土壌」においても十分に対応できる能力を持っているからです。

C3植物、C4植物の比較

	C3植物 ベント	C4植物 ノシバ、コウライ、 バミューダ	補 足
葉の構造	葉肉細胞に葉緑体が存在	葉肉細胞、維管束鞘細胞にも葉緑体が存在	ノシバ、コウライ、バミューダの方が、葉緑体の存在する細胞が多い。つまり光合成しやすい。
光利用効率	低い	高い	強光条件化では、活性酸素が発生し、むしろ植物の害になるが、ノシバ、コウライ、バミューダはベントが利用しきれないような量の光も利用することができる。
CO ₂ 気孔反応	反応が弱い	反応が強い	ベントは高温時にCO ₂ を吸収しにくい、ノシバ、コウライ、バミューダはCO ₂ を捕える能力が高い。
蒸散速度	450-950gH ₂ O/g乾物重	250-350gH ₂ O/g乾物重	蒸散速度はベントの方が速い。つまり乾燥に弱い。ノシバ、コウライ、バミューダの方が少ない水分でも生育可能。
最大光合成速度	15-40mg/CO ₂ /dm ₂ /hr	40-80mg/CO ₂ /dm ₂ /hr	1時間あたりのCO ₂ の吸収量。
生育最適温度	10-20℃	20-30℃	ノシバ、コウライ、バミューダの方が高温に強い。
最大生育速度	0.5-2g乾物重/dm ² /day	4-5g乾物重/dm ² /day	ノシバ、コウライ、バミューダの方が倍以上のスピードで生育する。
光合成最適温度	15-25℃	30-47℃	ベントは、夏場の日中は温度が高すぎて光合成が難しい。
窒素利用効率	低い	高い	少ない窒素でノシバ、コウライ、バミューダは育つ。あれ地でも育つ。